

ENOKI

え の き



のんびり歩いっぺん

3月30日(日)の肌寒い曇り空の朝9時、榎地区28町会247名の参加者が山吹高校に集合。今回は等々力溪谷を散策し多摩川の桜を鑑賞する全行程5km近いコースを歩きました。

等々力駅までは電車で移動その車窓から目黒川にそそぐ満開の桜並木が見え、歩く前から早くも感動しました。

等々力溪谷は武蔵野台地の南側に位置する全長約1kmの溪谷です。野鳥のさえずりを聞きながらケヤキ、コナラ等の樹木の間を谷川に沿って散策、武蔵野を満喫し、等々力不動尊へと向かいます。不動尊の「不動の滝」では、今でも滝に打たれて行をする人々が各地から訪れるとか境内の展望台から望む溪谷は、武蔵野の緑に満開の桜のコントラストが見事でした。

さらに溪谷を抜け、右手に多摩川を見ながら河川敷を進みます。見事な巨木の桜並木が満開の花をたわわにし、傍らのユキヤナギが風に揺れ、私たちを歓迎してくれました。

昼食は多摩川台公園の満開の桜の下で花を愛でながらおいしくいただきました。眼下に広がる多摩川緑地、ゆったりと川を渡る電車。のどかな風景を見ながら、山の手の瀟洒な家並みを抜け、田園調布駅より帰ってきました。

花冷えのする寒い日でしたが、満開の桜に包まれた幸せな春の一日でした。

(青少年育成委員 吉田律子)

防犯パトロール 榎地区協議会

榎地区協議会の第二(地域安全)分科会は、今年の2月から地域内のパトロールを始めました。地域安全分科会は特に「子どもの安全」に力を入れているので、パトロールも子どもの見守りが中心です。下校時の子どもたちに声を掛けたり防犯ステッカーを渡したりしながら、子どもたちの安全な下校を見守ります。

分科会の委員が、全員おそろいの青のベストに身を包み、キャップと腕章を着けた姿も頼もしく、青パトも出勤するという本格的(？)なパトロールです。小学校の先生、お父さん、お母さん、地区協議会のパトロールをよく見知りおきください。

青パトの車体には、「子どもは宝」というポスターを貼っています。このポスターは現在地域内のおちこちに貼らせていただいているものです。「榎地区はみんなで子どもを守っていて、犯罪が入り込めないまちなんだゾー」というメッセージを発信するポスターです。お目にとまったら、ちょっと周りを見回して子どもに目を向けてくださいね。

「子どもは宝」のポスターを貼りたい、貼ってもいい、とお考えのかたは、ご連絡ください。ミニネット版と、車にも貼れるマグネット版があります。



▲子どもは宝のポスター

団体としてのパトロールの他に、委員各自が一〜二人といった少人数で、近くの学校の登校時の見守りに立つという新しい試みもあります。学校に連絡の上、不定期に行いますが、目印はベストとキャップです。

青いベストの背中には「安全 安心パトロール 新宿区・牛込・新宿・戸塚四警察署」と、紺色のキャップには金色の文字で「防犯」と書いてあります

写真は3月12日(水)のパトロールの様子です。この日は学校のお別れ会などごぶつかってしまったこともあり、あまり多くのお子さんの顔を見ることはできませんでしたが、パトロールはこれからも続けます。子どもが安全に暮らせる榎地区を、みんなで作りましょう。



榎町特別出張所 新所長の紹介



▲榎町特別出張所長 佐藤之哉

こんにちは。4月1日に榎町特別出張所長を拝命しました佐藤之哉(ゆきや)です。前職は健康いきがい課長です。先日は、鶴巻町フェスティバル及び榎ふれあいデーに参加させていただきました。参加者の多さに驚きました。さて、新宿区では昨年12月、基本構想、総合計画を策定しました。その中で榎地域の将来像は「今も昔も文化と活力のあるまち 早稲田」とされています。私は特別出張所長として、この将来像に向かって努力していきますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

一枚の写真

まちの記憶①

昭和20年代の後半、道路が拡張されて間もないころと思われる早大通りで、祭礼のときに撮った懐かしい写真です。並木のケヤキも植えられたばかりで数が少なく、通りにグリーンベルトはありませんでした。

中央にいるのは、早稲田鶴巻町にお住まいの井田三郎さんのおとうさんの清重さんです。惜しくも昨年の1月にお亡くなりになりました。写真に撮られることを意識して、恥かしそうに視線を外している姿に、実直でシャイだった清重さんのお人柄が偲べれます。清重さんは長年にわたり鶴巻南町会の町会長さんをなされ、地域に多大な貢献をされた方です。お亡くなりになる少し前まで、鶴巻小学校前の交差点に立ち、旗を持って、子どもたちの安全な道路横断を見守っていただきました。



*皆さんの思い出に残る昔の写真を広報誌にお寄せください。

いきいきサロン

3月14日(金)の午後、鶴巻小学校にていきいきサロン「つるまき」が開催されました。心配された雨も昼過ぎにはやみ、60名近い地域の方々が鶴巻小学校のランチルームに集まり、授業の終わった子どもたちと一緒にお手玉作りや囲碁などを楽しみました。

いきいきサロンとは、地域の方々が世代を超えて交流を深めたり、一緒に趣味活動などを企画・運営していきいきする「仲間づくり、居場所づくり」の場です。いつでもだれでも気軽に参加できるサロン活動は、高齢者の身近な居場所として、また、地域活動の拠点として今、大変注目されている活動です。2008年3月現在、新宿区内には40箇所のサロンがありますが、今回はサロンの開催場所を鶴巻小学校としたことが注目すべきことでした。「学校を地域の拠点に」という鶴巻小学校の小原校長先生(当時)の発想を始まりとし、小学校の先生方と地域の協力者が一緒に話し合いを重ね、今回の試験的ないきいきサロンの開催に至りました。



▲囲碁を楽しんでいます

参加した子どもたちは、はじめはいつもと違う学校の雰囲気戸惑っている様子でしたが、後半には地域の方々に教わりながら一緒にお手玉作りをしたり、いろいろなゲームを教わったりと楽しい時間を過ごしていました。このように、会はとも和やかで素敵な雰囲気の中で進んでいきました。このサロンの場合は地域の方々と子どもたちとの楽しい空間であり、また、さまざまな世代にわたる出会いの場所になっていくことと思います。



▲お手玉作りを教わりました

年度末ということもあり、今後の開催については未定ですが、参加者からのアンケートでは、次回開催を望む声が大変多く聞かれました。開催者側、協力者側の方々は、アンケートから読み取れる声に応えるべく、継続した活動にしていきたいと強く思っておられるようです。地域の方々が主体となるからこそ、長くその土地に根付いた活動に発展していきます。誰でも気軽に参加できるこの鶴巻小学校でのいきいきサロン「つるまき」に、皆さんも参加してみませんか？次回の開催予定は町会の掲示板等でお知らせいたします。皆さんの声で小学校を会場とした、いきいきサロンをつくりあげていきましょう。

江戸川小野球教室

新入部員募集！

毎週、土・日曜日と祝日を中心に江戸川小学校校庭等で練習しています。和気あいあいながら、「野球を通じ強いハートの子ども(真面目・生懸命・前向き)を育てる」「強いハートを持つことにより、子どもが自信を持ち、さらに成長していくのを手助けする」ことを目標に奮闘しています。現在、年長から6年生まで総勢約20名。江戸川小学校を母体として運営していますが、他校からの参加も大歓迎。

野球だけでなく、夏は河原へ出かけ「バーベキュー大会」、秋は地藏通り商店街ふるさと祭り、「イカ焼き・ランクルト焼き」を行うなど、季節に応じたイベントも開催。親子揃っての親睦も図っています。

見学・体験入部など、いつでも受け付けています。お気軽にご連絡ください。また、ご父兄の方々の参加も募集中。経験不問。お子さんと一緒に汗を流してみませんか？

問合せ 福村 隆 ☎3235-6217 (メール) takashi_fukumura@ml.com

消防団員を募集しています！

牛込消防団第三分団は、地域を守る防災リーダーとして、災害時における知識や技術を習得して、皆さんのお役に立てることを目的に活動を行っています。

現在、消防団員が不足しています。地区内にお住まいの方、職場のある方、入団をお待ちしています。

問合せ

第三分団長 佐々木 精一 ☎3260-2690
牛込消防団 分団長 河合 忠 ☎3268-8852

シヨートテニスを楽しむもう！



シヨートテニスは屋内で行う、テニスに似たスポーツです。ラケットはテニスものより小さくて、初心者でも気軽に楽しむことができます。ご家族、お友だちも誘って、ぜひご参加ください。申込みは不要です。

- ◇日時 5月4日(日) 午前10時～正午
6月8日(日) 午前10時～正午
- ◇会場 早稲田小学校 体育館
- ◇参加費 100円(保険代含む)
- ◇主催 牛込第二中学校区
スポーツ・文化協議会

薬王寺町・柳町 七夕まつり

7月6日 日曜日
午後1時～

榎地区で最も派手なお祭り「七夕まつり」を外苑東通りで開催します。サンバルカーニバル、子どもたちによるパフォーマンスなどをお楽しみください。

◇主催 薬王寺・柳町連合
七夕実行委員会



技の伝承⑤
十七代
肴屋三四郎
榎町 河合忠さん

榎町児童センターのすぐ近く、「肴屋三四郎」といえば、「おいしい魚屋さん」ということで、知らない人はいないほどのお店です。古めかしい看板に「創業三百八十年第十八代肴屋三四郎」とありますが、お寺の過去帳をさかのぼれば享保8年(1723年)であることを容易に推測できるそうです。

ご主人は、十七代当主の「河合忠さん」で、代々「三四郎」を名乗っています。今は、若手県出身の奥さんと、いすれ十八代三四郎を引き継ぐ、息子さんと一緒に魚屋さんをしています。

榎町地域センターで、「お魚のおろし方教室」の講師を何度か引き受けてくださっているので、包丁さばきの指導を直接受けた方も大勢いらっしゃると思います。

「おいしいお魚屋さん」の定評は先ほども述べましたが、週刊誌やテレビなどでも何度も取り上げられています。「おいしいお魚の見分け方は、どんな風ですか。どこを見るのですか」との筆者の質問に対しては、「ふなが良い」と言うのですが、おいしい魚は形が良いです」と答えていただけました。



▲息子さんの孝さん お孫さんの智くん 河合忠さん



「きちんとした魚は、包丁がすっと入ります。また、「やはり少しくらい高いなら、値段の高い方がやはり美味しいです」とも話していました。

「息子さんには、どのように教えているのですか」と聞くと、「失敗しても、謝らなくていい。もっと見てと教えているそうです。」「細く長く」は、家訓で「牛のよだれの如し」だそうです。



「若い人は、お魚離れしていませんか」と尋ねると、中国製の冷凍食品の影響もあってか、「きちんとしたものを食べたい」と言う若い方が増えてきましたとの答えが返ってきました。

なお、夏目漱石の代表作の一つに「三四郎」という小説がありますが、早稲田南町に住んでいた漱石が神楽坂への往來の都度「肴屋三四郎」の看板を見て付けたという説と、漱石の自宅の二、三軒先に住んでいた物理学者後に山形高校の教頭の「田中三四郎」の表札を見て、本人の了解を得てつけたという説がありますが、今では定かではありません。

※河合さんは牛込消防団の分団長もなされています。

漱石公園
リニューアル
オープン

郷土の文豪、夏目漱石の終焉の地の一部にある新宿区立漱石公園(早稲田南町7番地)が、漱石の誕生日の2月9日に、リニューアルオープンしました。

昭和51年の開園から30年が経ち、公園敷地の北側と東側にある房州石の擁壁が、経年の老朽化で崩れる危険性があり、補修工事が必要になりました。この工事に際しては、園内の樹木、猫塚、漱石の胸像等、全面的に仮移設する必要があるため、抜本的な改修を検討しました。このため、漱石に関する学識経験者、周辺住民、公募による区内外のプランナーが約1年かけて検討。その結果を反映して設計し、このほど完成したものです。

まず、園内には、児童遊具類はなく、庭園風となり、漱石が住んでいたころの樹木(木賊、芭蕉等)を多く植栽しました。公園を訪れた方のために、漱石に関する情報を発信できる建物も新設。また「漱石山房」の象徴的な施設として、書齋や応接間の周囲にあった、白色の回廊を模した施設も設置されました。擁壁の房州石は、回廊の土台に使用したり、加工して園内の敷石として再利用されています。

このリニューアルは、漱石山房の復元に向けての第一歩を踏み出したともいえるでしょう。

●開園時間(時間外は入園不可)

4月～10月:午前8時～午後7時
1月～3月:午前8時～午後5時



牛込仲之小学校

117人118脚

★世界記録達成

牛込仲之小学校長
近藤伸壽

平成20年3月8日(日)午前11時20分、ギネスブックの世界記録が本校の子どもたち、保育者の方々、そして教職員によって達成されました。50メートルの距離をタイムで競うのではなく、一人も転ぶことなく歩くという、人数の多さで競うものです。

「校長先生、百周年の最後を飾る記念のイベントにしましょう」と、この話をはじめに持ってきて下さったのが周年実行委員会の野中事務局長さんでした。素晴らしい企画だと思えました。

12月15日、第一回目の練習が始まったものの、なかなか思うような結果が出ません。そこで、テレビで行った、タイムで競う「30人31脚」の指導者である愛日小学校の小杉先生に、「走る」と歩くの違いはありますが、「こ」を教えていただき、大変参考になりました。しかし、何度練習してもイギリスの会社の持つ記録には届きませんでした。

12月15日の第一回目の練習から、本番の3月8日まで、畔柳PTA会長さんをはじめPTA、おやじの会の皆様方、周年実行委員会の皆様方には、このイベントの成功に向けて、どれだけの時間と努力を割いていただいたか計り知れません。只々感謝の一語です。

いよいよ本番にも恵まれた3月8日、会場としてお借りしている牛込第三中学校の校庭に、御来賓の方々、子どもたちや保護者の方々、教職員が集まりました。記録の見届け人三名が必要ということで、若松地区青少年育成委員会長の柳川信子様、新宿区立小学校PTA連合会長の亀井昭彦様、東戸山小学校スクールコーディネーターの松下千恵子様、快くお引き受け下さいました。

本番はたったの一回、そこで失敗するとやり直すことは認められていません。そこで練習というところで、今までの世界記録「77人78脚」を一名上回る「78人79脚」の練習を行うことにしました。成功するかどうか心配でしたが、子どもたちは太鼓のリズムに合わせて50メートルの距離を列を乱すことなくきれいに歩きまわりました。「今のを本番にすればよかったです」という思いがよぎりました。おそらく皆さんがそう思われたと思います。

いよいよ本番。あとは祈るしかありません。これもおかげさまで成功。世界記録達成の瞬間です。

「よし、それならさらに上の記録に挑戦」ということで、集まっていた保護者の方、低学年の子どもたち、そして本校教職員による「117人118脚」がスタートしました。これは無理だろうと思いつながら太鼓を叩きましたが、何とこれも成功。イギリスの会社もついていた「77人78脚」の記録を、4人も上回った記録です。

「万歳の声が響き渡りました。快挙でした。百周年の最後を飾る素晴らしいイベントでした。

子どもたちはこのイベントを通して挑戦協力することの大切さを学び、達成した喜び、感謝の心をもつことができたと思います。また、区広報の区政情報課や榎町地域センター、そして新聞社からの取材等々、なかなか体験できないことを体験し、一生忘れられない日になったことと思います。

私はといえば、「117人118脚」の世界記録達成の瞬間、嬉しさよりも「感謝」の気持ちで満たされていました。このイベントに関わって下さった全ての方々に、心の中で「ありがとうございました」と何度もつぶやいていました。同時に牛込仲之小学校が誇れるものは、子どもたちであり、保護者並びに御家族の方であり、地域の方であり、そして本校教職員であるという思いが、あらためて湧いてきました。

本日に嬉しいことは、すべてには喜びにはつながってこないと言います。やっと今こころになつて嬉しさと縁のありがたさをしみじみとかみしめています。

皆様方の温かい御声援が何よりの励みとなりました。心より感謝申し上げます。



オリンピックの話②

北京オリンピックの施設

早稲田大学名誉教授
東京卓球連盟会長

森 武



最近北京へ行って気付くことは、トラックや自動車による交通渋滞である。私が50年前に行ったときは四輪系はほとんど見当たらず、自転車が多かった。もちろん今でも自転車の利用は多く、道路の横断歩道寄りにある専用ゾーンはラッシュ時などなかなか横切るのは難しい。また、バスもどんどん増え、交通事情は複雑化している。

しかし、オリンピックを控えて地下鉄が三路線でき、この面での解決策となった。また、競技場や体育館の建設も地下鉄路線の近くに平行して新設するという合理的な両面作戦が進められているし、さらに北京市当局はプリペイドカード方式を採用して、バスも電車も切符なしで乗れる工夫をしているという。

最近、日本の新聞、テレビでも紹介されるようになった「鳥の巢」といわれる国家体育場(メイン・スタジアム)も4月に完成のようである。建築美学上からも優れたものと評価され、最近はこの会場をバックにしての記念写真を撮ることがブームになっているとか。

この会場は開閉会式、陸上競技が行われ、座席数は九万一千人という巨大な施設である。その他、北京オリンピック28種目中、馬術、ヨット、サッカー予選が青島、上海などで行われるが、その他は全て北京市で行われる。

一昨年4月に訪中したときは施設のプラモデルなどを陳列した工事計画センターがあったが、1月に訪中した時はクローズに

なっていた。話しによると、工事進行に全力を挙げるため、施設視察は中止になったということであった。オリンピック公園を中心に約30の体育館を2007年中に完成させるべく懸命の努力中であった。また、オリンピック後の有効活用という意味で、学校関連施設とするものが目立っていた。左の写真も厳しい規制の中で、中国卓球協会の特別ゲストという許可をもらって取材をさせてもらったもので、場所は北京大学校内であった。

今、北京市の空は薄暗い。体育施設の突貫工事もさることながら、道路・地下鉄工事と古い民家の解体作業などによるものがある。住民とのトラブルもあると聞くが、大会中国は、大会前日までには支障のない施設作りを完成させるだろう。

(次号に続く)



▲2006年11月 卓球会場
中国卓球協会の役員と工事責任者 中央が森武さん



▲2006年4月 国家体育場



▲2006年11月 卓球会場

地域の史跡探訪③ 濟松寺

祖心尼の墓

濟松寺は徳川三代將軍家光が、祖心尼のために建てた臨濟宗の大禅院です。祖心尼は、江戸城の大奥を統率し、老中・諸大名などにも影響力を保持した、春日局の姪にあたる人で、請われて大奥に出入をしていますが、その後も大奥に勤め続けました。人格者で教養も高かったことから、心奉する人が多数にのほりました。將軍家光は、祖心尼に寺を寄進することを思い立ち、開山を京都妙心寺の塔頭雜華院の水南和尚、開基を祖心尼として正保3年(1646)に濟松寺は建立されました。山号は「蔭凉山」と名付けられました。

寺領は三百四十五石で、この地域では、榎町、天神町、中里町、高田町、馬場下町、早稲田町、原町他でした。境内には七堂伽藍が整備された巨刹で、広大な寺と土地を管理するために、濟松寺代官がもうけられました。

宝暦年間の大火事、昭和20年5月25日の空襲をはじめとして、幾度かの大火難の度に、寺の建物は類焼、破壊されましたが、法灯は消えることなく、再び諸堂が建立され、今また往時を彷彿とさせる境内のたたずまいとなっています。

境内のお墓

境内には、祖心尼と水南和尚が「当山開基 祖心大禅尼之塔」、「当山開山水南大和尚之

塔」と刻まれた墓石の下で眠っています。その他、家光の側室であった「お里佐の方」、「おまさの方」、江戸の儒者木下順庵家、山口菅山家の墓などがあります。また大阪の岸和田藩主・岡部家の菩提寺でもありました。

禅の庭

幕末に刊行された「江戸名所図会」に、濟松寺の広大な境内が詳細に描かれています。濟松寺の庭園普光園は、都内でも有数の名庭として知られていました。かつては園内に小川が流れ金明池に注ぎ、石橋が架けられ、築山を設け、巨岩が置かれていました。今では規模は縮小しましたが、境内に一步踏み込めば、都会の喧噪をよそに草花が咲き乱れ、多くの樹木が繁り、小鳥がさえずり深山幽谷の趣きが残されており、往時をしのぶことができます。



●濟松寺 榎町7番地

通常は一般開放していませんが、グループでの「お庭拝見」は可能です。

☎03268-7908

地域センターからの お知らせ

郷土の文豪 夏目漱石を学ぶつどい

この地域には、夏目漱石が生まれ育った喜久井町と、作家として活躍し、多くの弟子を育てて亡くなった早稲田南町があります。そこで、地域の文豪を少しでも知っていただこうと、NPO法人漱石山房と協働で、1月27日(日)に、地域センター4階多目的ホールで「夏目漱石を学ぶつどい」を開催しました。
夏目漱石が活躍した時代背景、作品紹介と解説の講演、電子紙芝居「夏目漱石物語」の上演、映画「坊っちゃん」の上映等を行い、100名近い参加者の方に漱石に関する知識を深めていただきました。

■納涼カラオケ大会

◇日時 7月27日(日) 午前10時～午後4時
◇会場 榎町地域センター4階 多目的ホール
◇出場者以外の方もご来場ください。

◇カラオケ大会出場者募集

定員 72名 定員になり次第、募集を終了します。
参加費 3000円
申込み 6月22日(日)午前10時より、当センター3階 工芸美術室
申込書は5月15日(木)より当センター2階事務局に設置します。

■「展示コーナー」新設

2階の談話コーナー奥に、地域センター登録団体の方々にご利用いただけるよう、展示用のスペースを新設いたしました。
展示希望の方は、2階事務局に指定の使用申請書を用意してありますので、必要事項を記入して提出してください。展示にあたっては注意事項がありますのでお問い合わせください。

問合せ 榎町地域センター事務局

☎0202-851005



榎地区青少年育成委員会

みんな集まれ 釣り大会

小・中学生の皆さん、市ヶ谷の釣り堀でコイ釣りを楽しみませんか？2時間で釣り上げるコイの重さや数を競います。
釣りが初めての方も大歓迎です！初心者には育成委員が竿の使い方や餌の付け方を教えます。ご家族の方もご参加ください。

◇日時 6月15日(日)父の日
午前9時～12時

◇会場 市ヶ谷フイッシングセンター

◇参加費 小・中学生 無料

*釣りをする大人は、当日釣り代(1000円)をお支払いください。

◇申込み 5月上旬に各学校から配布される申込書に必要事項を記入し、学校に申込みください。

カレーライスを 楽しむ会

暑い夏の日には、辛いカレーライスを食べて元気になる！育成委員が手づくりのカレーをたくさん用意して皆さんの参加をお待ちしています。

◇日時 7月19日(土)午前11時30分

◇会場 牛込第二中学校 校舎内

◇参加費 無料

◇対象 幼児～中学生・保護者

◇申込み 当日直接会場へ

昔あそび

もちもちの会

昨年までの「昔あそび おしるこの会」を、今回より「餅つき」の「もち」と「地域の皆が持ちつ持たれつ、助け合っていこう」の「もち」を併せて、「昔あそびもちもちの会」と名称を変更して実施しました。

3月16日(日)、牛込第二中学校の校庭に早朝より「もちつき」の音が響きました。前日からいっただ40kgのお米で15臼ものお餅をつき、からみ餅にするまで、全ての生徒さんたちが頑張りました。生徒さんたちが作ったお餅はとてもおいしく大好評でした。

校内では「昔あそび」の福笑いに興じるおばあちゃんとお孫さん、けん玉やコマに夢中になる親子、メンコを打つ友だち同士が集い、そして羽根つきの昔もにぎやかに、笑い声と共に響きました。さながら何十年前の時代にタイムスリップしたようでした。



▲「粘土の型あそび」
粘土で怪獣や人気キャラクターを作る遊び



▲二中の校長先生も参加



▲突き棒を巧みに操り、蒸しあがったもち米を半つきにしてい



児童センターの先生のご指導でたこ作り、広い校庭でたこ揚げをしました。青空の下で、たこと一緒に子どもたちもびびびと自由に舞っていました。
参加者は237名(内中学生65名)。大勢の方にお楽しみいただき、世代間の交流ができた「もちもちの会」となりました。二中の生徒さんたちも大満足の様子でした。
皆さんお疲れさまでした。また、練習中にもかかわらず、たこ揚げのために校庭を使わせてくださったミルキーズの皆さん、ありがとうございました。

早大通り 鶴巻町 フェスティバル

今年の春も、早大通りの歩道はしだれ桃の美しい紅白の花に彩られました。
4月6日(日)の正午から午後4時まで「鶴巻町フェスティバル」が開催されました。会場となった歩行者天国の早大通りには大勢の人が集まり、フリーマーケットやパフォーマンス、模擬店を楽しみました。
回を重ねるたびに盛況になっていくフェスティバルですが、しだれ桃の花が咲く時期の景観の美しさも年々増してきているようです。



えのき 俳句・川柳 『春』

仏の顔も三度か四度か五輪荒る
高齢者に後期とつける 末期日本

— 魔人ブー —

開花して はっと気が付く

— 桜の木 —

感動を呼び満開に咲く桜

— 微風 —

忘れずに 芽吹いた木々が春を告げ

— 一湖 —

花粉飛ぶ ニュースを聞いて鼻ぐずみ
待ちわびた春一番にしっぺ返し
水ぬるみ米とぐ指も踊りだす

— 枕流 —

目のかゆみ今年もはじまり春近し
桜(はな)の中制服姿の晴れやかさ

— 庸翔 —

鳥鳴く庭に水仙咲きにけり

— 吉田 —

学らんのポタン消えてく別れの日
街並がうすもいろの新年度
窓ごしにあたるひざしに夢の中

— シュガーバイン —

東京の雨降る街もさくら色

— 海 —

母想い五月に飾るねがい雛
ちりめんの今は昔が匂うかな

— 里人 —

ちりめん細工 小さな小さな作品展

2月28日と29日、中里町にお住まいの中村廣子さんのお家で「ちりめん細工」の作品展が開かれました。出品された懐古布グループ8名の方の作品を、春夏・秋・冬号の「えのき」で紹介いたします。

古布から作られた小さな雛たちの表情は豊かで、手のひらに乗せてみると、一針入れるたびに、子どもの成長を願ってきた母の思いが伝わってきます。



出品された方のお名前(敬称略)

秋田 昌子 大岩久美子 貝田千恵子 金沢 邦子
小林さゆり 木戸東美子 元木 公子 吉田美智子



● 広報誌「えのき」に、皆さんのご意見やご感想をお寄せください。

● 新企画「えのき俳句・川柳」に掲載する句を皆さんから募集しています。皆さんの周りの身近なことを「五・七・五」の句にしてみませんか。次号のテーマは「夏」です。応募お待ちしています。

● 「家族の肖像」「まちのペット」「技の伝承」の記事に登場していただける方、ペットをご紹介ください。

● 広報誌「えのき」に関するお問合せや応募は、榎町地域センター2階事務局までお願いします。

TEL 3202-8580
FAX 3202-2478

編集後記

いつもは「子どもたちの活躍レポート」を担当していますが、今回は「技の伝承」を担当しました。いつも買って食べている魚屋さんが、こんなすごい人なのかと改めて思いました。まさに地域の財産です。

(那須 雅之)

牛込には江戸時代の遺跡が多いので、暖かい春の陽を受けて、まちを行き来する老若男女の姿をしばしば見かける。「灯台下暗し」では恥ずかしい。テレビにかじりつかないでまちを巡るのも一興かと思えます。

(吉田 和正)

ちりめん細工の作品展に行きました。以前、地域センターで開催した「美術作品展」で中村廣子さんの「つるし雛」の作品を拝見したときも、あまりの美しさに驚いたことを憶えています。

今回の「小さな小さな作品展」でも、懐古布グループの素晴らしい作品の数々に感動しました。

(山ノ上洋子)